

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2007～2010

課題番号：19530560

研究課題名（和文） 相補的ステレオタイプと社会システム正当化動機の関係

研究課題名（英文）Relationship between complementary stereotypes and system justification motive.

研究代表者

池上 知子（IKEGAMI TOMOKO）

大阪市立大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号：90191866

研究代表者の専門分野：社会心理学

科研費の分科・細目：心理学・社会心理学

キーワード：社会的認知・感情

1. 研究計画の概要

本研究は、個人レベルの認知機制と社会のマクロ構造は相互に関連しているとの視座から、日本の学歴階層社会の文脈において相補的ステレオタイプもしくは相補的世界観（ある次元で優る対象は別の次元では劣るという暗黙の信念）が社会の階層構造の維持強化にいかにか寄与しているかを解明し、格差是正に人々を動機づけるための方途を探る目的で以下の2つの検討課題を設けた。

（1）学歴社会において優位に立つ者と劣位に立たされている者を評価するとき、相補的ステレオタイプが適用されるか、また、相補的ステレオタイプが平等主義的世界観との葛藤を低減し、格差を生み出す現行の社会システムの正当化を促すかを検討する。

（2）格差是正への動機を高める方法として2つの可能性を探る。一つは、非相補的事例への接触が、相補的ステレオタイプのリアリティを減じ、平等幻想の生成を抑制することを通して、格差是正への動機を強めるかどうかを検討する。もう一つは、格差の原因の統制可能性に対する認識を変容させることにより、相補的ステレオタイプに依存する傾向が低減され、格差是正への動機が強まるかどうかを検討する。

2. 研究の進捗状況

<2007年度の成果>

（1）日本の学歴社会システムを正当化する動機を測定するための尺度を作成し、大学生を対象に実施した調査により信頼性と妥当性を確認した。

（2）日本社会における学歴による地位差と相補的ステレオタイプが関連しているかどうかを検証した。大学生を対象に所属大学よ

り学力水準が上位の大学の学生と下位の大学の学生を能力特性と対人特性について評価させたところ、集団レベルでも対人レベルでも相補性が認められた。また、上位の大学の能力評価と下位の大学の社会性評価の間、下位の大学の能力評価と上位の大学の社会性評価の間に正の相関関係が見られるなど、全体として相補的世界観が維持される傾向が認められた。

<2008年度の成果>

相補的ステレオタイプの効果が顕現化もしくは低減しやすい条件を明らかにするため、内集団高揚動機とシステム正当化動機の間を検討したところ、以下の知見が得られた。

（1）大学生の場合、所属大学への自己同一視の程度が高いほど、内集団高揚動機が強く喚起されたときほど、全体として相補性を顕著に示した。

（2）上位の大学に対する評価にみられる相補性は内集団高揚動機が高まる時に学歴社会への正当性と関連性を示したが、下位の大学の評価にみられる相補性は内集団高揚動機の高低にかかわらず、学歴社会の正当性と関連することが確認された。

<2009年度の成果>

（1）なぜ相補的ステレオタイプがシステム正当化を導くのかを大学生を対象にシナリオ実験を行い検討した。その結果、相補的事例への接触が、成功者と失敗者の間の幸福格差を解消し平等幻想が生成されること、その結果として格差を生み出す社会システムが正当化されることが明らかになった。

（2）社会人を対象に質問紙調査を実施し、相補的世界観が、学歴、性別、年齢にかかわらず、現行の日本社会全体の肯定に結びつ

くこと、また学歴格差自体の認識を抑制することが明らかになった。

3. 現在までの達成度

おおむね順調に進展している。

(理由)

これまでの研究により、相補的ステレオタイプや相補的世界観がシステム正当化を導くという主張が日本の学歴階層社会でも妥当することが示され、またそれはどのような心理プロセスに支えられているのかについて、ほぼ解明されつつある。ただ、本研究の第2の目的である人々を格差是正へ導くための方策を提言するまでにいたらず、またそのための実証的研究が未達成のままである。

4. 今後の研究の推進方策

これまでの研究から、相補的ステレオタイプや相補的世界観がシステム正当化を導くメカニズムや、そのようなメカニズムが機能する境界条件が存在することが示唆された。したがって、それらの知見をもとに、相補的ステレオタイプや相補的世界観のリアリティを減じるような情報を提示することで、その心理的効用を低減できることを実証する実験を行うつもりである。

また、格差是正へ人々を動機づけるための方策を提言することが本研究の最終目標であることから、本研究で得られた一連の成果を国内外の研究と関連づけながら体系的にまとめ、広く社会に発信するために単行本の執筆を計画している。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計2件)

Ikegami, T. (in press). Precursors and consequences of ingroup disidentification: Status system beliefs and social identity. *Identity: An International Journal of Research and theory*. 掲載確定 査読有り

Ikegami, T., & Ishida, Y. (2007). Status system and the role of disidentification in discriminatory perception of outgroups. *Japanese Psychological Research*, 49, 136-147. 査読有り

〔学会発表〕(計9件)

池上知子 社会システム正当化における相補的ステレオタイプの役割 日本社会心理学会第50回大会・日本グループ・ダイナミクス学会第56回大会 合同大会 2009年10月10日 大阪大学(吹田キャンパス)

Ikegami, T. The moderating role of group

identification in complementary stereotype effects. The 29th International Congress of Psychology. 2008年7月22日 Berlin (Germany)

Ikegami, T. Complementary stereotypes in status hierarchy: The role of group identification. The 9th Annual Meeting of the Society for Personality and Social Psychology. 2008年2月8日 Albuquerque (U.S.)